

2021年度第2回町田市環境マネジメントシステム外部評価委員会 議事要旨

- 【日時】 2021年11月4日(木) 午後6時00分～午後7時40分
【場所】 リモート
【出席者】 委員：松波委員(委員長)、奥委員(職務代理)、斉藤崇委員、
檜山委員、屋委員、斎藤之良委員、伏見委員
事務局：町田市環境資源部 野田、
環境政策課 宮坂、池澤、土志田、井上、西、香山、藤森
コンサルタント：株式会社知識経営研究所
【欠席者】 委員：菅野委員
【傍聴者】 なし

議題

1 土木・公園サービスセンターにおける廃棄物の排出について(報告)

- 事務局から、説明を行った。

奥委員： 今の説明については、資料は頂戴していないか。口頭で説明いただいただけか。

事務局： 口頭での説明である。

奥委員： 十分に正確に理解できたかも不安なところもある。しっかりと文書で準備いただいたほうがよかったと思っている。

事務局： 数値等も含めて、後日、文字として委員の皆様へ送付する。

松波委員長： ただいまの件について、何らかの形で事実関係について、評価の書面の中に入れてほしい気がするが。

事務局： そのあたりも工夫して入れるようにする。

松波委員長： データには入っていなかったということで、実際に廃棄は適切に行っていて法令は遵守しているということだが、それにしてもデータに反映されていなかったのは問題なので何らかの形で反映するべきである。

2 2020年度の実績の評価について

(1) 質問等に対する回答及び補足説明

- 事務局から、説明を行った。

伏見委員： 台風が来た時のごみの排出量はわかる。しかし、今回、予防に力を入れているのは知っているが、台風時と同じ数字というのは解せない。

事務局： 大型台風時と大差ないというのがご理解いただくのが難しいかも知れないが、結果的に、路面清掃等を行ったことでこの量が出たということだった。どれくらい差があるべきか事務局としても確信が持てていない部分もあるが、確認を行ったところこのような排出量であったということである。

伏見委員： 半分わかった。

(2) 2020年度の評価の審議

- コンサルタントから、説明を行った。

コンサルタント： まず、それぞれ委員から、各項目について評価点の発表をお願いする。

- 各委員が、現時点の評価点を発表した。

委員氏名 評価項目	松波 委員長	奥 委員	斉藤 崇委員	楢山 委員	屋 委員	齋藤 之良委員	伏見 委員	平均 点
(1) 温室効果ガス・エネルギー	5	5	5	5	4	4	4	4.6
(2) 資源（廃棄物） 資源（紙）	2	2	2	2	2	2	2	2.0
(3) グリーン購入達成率	3	2	2	2	3	3	2	2.4
(4) エコオフィス活動 （職員共通）	4	4	4	4	4	4	4	4.0
(5) エコオフィス活動 （施設担当部署）	4	4	4	4	4	4	4	4.0
運用状況 研修の実施 環境法令の遵守 内部環境監査 情報公開	3	3	3	3	4	4	3	3.3
平均点	3.5	3.3	3.3	3.3	3.5	3.5	3.2	3.4

(評価点基準) 5：評価できる 4：概ね評価できる 3：普通 2：あまり評価できない 1：評価できない

※内部環境監査は、2020年度実施していないため、評価対象から除外します。

評価項目(1)温室効果ガス・エネルギー

コンサルタント： 屋委員、4点とした理由・満点ではない理由はなにかあるか。

屋委員： 基準の目標に対してはクリアできていると思うが、目標自体が今の国や世界的な動きからして少し低い設定である。そのため、今後の期待をこめて、4点とした。

コンサルタント： 目標に対する成果としては申し分ないという理解でよろしいか。

屋委員： 数字をみる限りは目標を達成できているが、そもそも目標を少し高めたほうがいいのかと思うため、4点である。

コンサルタント： 目標は来年度が最終年度かと思うが、今の世の中の動きを見ていて、当然、高い目標に次はなるのは間違いないのでそこに期待ということか。

屋委員： そうである。やはり高めていかなければいけないかと思うので、そういう意味である。

コンサルタント： 伏見委員、4点とした理由はあるか。

伏見委員： 今のところ、CO₂の排出量は削減傾向にあるが、施設休館がなくなった後も、それが続くといいなということで4点とした。

コンサルタント： コロナの影響も加味してということだろうか。つづいて、松波委員長は満点とされているが、その評価にした理由はなにか。

松波委員長： 目標に到達しているということと、実際に排出係数の影響もあると思うが、それだけでなくエネルギー使用量自体も年々減っているということ等を評価した。

コンサルタント： CO₂に追加で電気使用量も、ということだろうか。続いて、排出係数の低い事業者と契約するということについてはどうか。

奥委員： 電力事業者と随意契約している施設についても代替値未満の係

数の事業者であることを条件とした結果、温室効果ガスの大幅な削減が可能となったことは、昨年度評価した時点と比べても大きな前進であってその点は評価できると考えた。

コンサルタント： 契約の部分については、町田市だけではなく結構先進的な取り組みである。環境という視点で、契約のところではしっかりとかなり広範囲で行っているということは評価できる。

評価項目(2)資源（紙・ごみ）

斎藤之良委員： 実際あまり改善されていないということもあるが、グリーン購入達成率のようにトレードオフしなければいけないものとは若干違い、計画性を持って行えばマイナス傾向を作っていくものだと思う。計画のもとに照らしているということが見えてこないため2点とした。

コンサルタント： 不要物が廃棄というアクションを起こさないと「廃棄物」としてカウントされず、不要物というのは常にある。それをどのタイミングで廃棄するのかによって数字の増減がある。計画的にというのは、そのあたりのことか。

斎藤之良委員： こうすれば削減できるというのが、作りやすいテーマではないかと思っていた。タブレットや電子化の話もあったが、電子化をする際には、まず標準化という作業がある。今まで文書でやり取りしていたものをどう標準化するか。そうやって電子化すると一気に紙が減ることになる。こいつのことをきちんとやっていけば、もう少し効率的に削減できるかと。そうしていただきたい。

コンサルタント： 土木・公園サービスセンターに絡んで点数つけた方はいるか。

松波委員長： 目標達成に際して一番重要なのは、データが信用できることである。その点に関して、今回のことは、非常に重大な問題だと思った。

コンサルタント： 今の件に関して、こちらから提案、みなさまにご意見いただきたいことがある。今まとまっている実績報告書をご覧いただきたい。

い。市の説明や今の松波委員長のご意見を聞いていて、実績報告書の該当箇所に、何か補足やきちんとした説明等の記載があればと思ったがみなさんいかがか。もちろん、ミスをしたということに対しての低評価はあるが、まずはその記載が必要かと思ったが。

奥 委 員： 土木・公園サービスセンターの数値が正確に把握されていなかった原因だとか再発防止策について、特に原因とともに、教育センターについても、説明で理解はできたが、そもそもそうした説明を実績報告書に記載いただくべき情報だと考える。評価意見としては、そのようなことを提出する予定であった。

コンサルタント： このことについて、事務局いかがか。実績報告書により詳細な理由、コメントを載せていただけるか。

事 務 局： 入れるように改善する。

コンサルタント： 最終にリリースされる報告書は、改正されたものが出るという前提でいただければと思う。松波委員長、それでよろしいか。

松波委員長： それでよい。

伏 見 委 員： 旧忠生第四小学校の椅子等のリサイクルはなかったのか。

事 務 局： 増加分については、全て廃棄物になっていて、リサイクルの扱いになっているものはない。

伏 見 委 員： 今後、小学校が統合されるのでどんどん廃棄物が出てくるかと思うが、それはすべて廃棄処分になるのか。まだそこまでは計画になっていないのか。

事 務 局： 廃棄するものによってはリサイクル可能なものもあるかもしれないが、現時点では特に統廃合によって発生する廃棄物について明確な方針はない。

松波委員長： さきほどの資源廃棄物の紙の話について、実績値を把握すると

なっているが、数値の正確性がないと判定ができない。もう一点は、明らかに年々増加傾向にあり、再利用率も悪化状況にあるのは懸念事項である。その点も低評価につながっている。

コンサルタント： 委員のみなさんのご意見を伺っていると、1でもいいような気がする。あと、伏見委員から先ほどいただいたご意見について、私も粗大ごみについては同じように思った。意見のところで記載いただいてもよろしいかと思う。統廃合とか結構大量に出るときはどうなのか即答いただけなかったが、一旦検討はされているということではよろしいか。

事務局： 恐らく、大きな廃棄をするときには一つの事業者に頼むが、リサイクルできるもの、そのまま産廃として出るものなど、種類を分けて頼んでいく。事業者の方で資源化できるものは資源化していくと思うが、今後はきちんとして説明できるようにしっかり把握したい。今後学校の統廃合が進んでいくので、イレギュラーな増減というのが増えると思うが、適切な処理を心がけて、環境資源部の方でも、助言等をできるようにしていきたい。

コンサルタント： 再利用できるものは再利用するべきだと思うし、ほかに売却ができるかは不明だが、利用できるものは利用するといったところ、たぶん、いま、事務局からは即答いただけないが、役所は徹底して行っているはずだと思う。ただ、即答できないというところが問題だったりするので、そのへん使えるものは使う、リユース等はちゃんと進めているのかというところは、意見に入れていただいて、回答を促すのがよろしいかと思う。あと、再利用はちゃんとしているとは思いますが。

評価項目(3)グリーン購入達成率

齊藤崇委員： 報告書 11 ページを見ると、2019 年度、2020 年度と数字が悪くなっているのが、改善の傾向がみられないというところで2点かと。3が普通で、2があまり評価できないということだと、普通ではないかと判断して2をつけた。

屋 委 員： 昨年度より下がってはいるが、例年 80%近く達成できているの

で、厳しく評価するほどでもなかったかと思う。分からなかったのは、価格優先というところで、市民の方の税金で買っているので、時にはそういうのも出てきてしまうかなと考えたり、品質も細かいことはわからないが、様々な事業の中でどうしても機能が劣るものがあるのかなと考えたら、このくらいの数字で耐えているのは、3に値するかなと思う。

コンサルタント： グリーン購入の達成率は、基準が、該当する・しない等、その辺が役所によってもバラバラなので一概には言えないが、数字だけ見ると、私の知る限りでは高いほうである。7割以上の達成率が出るというのは。町田市は、基準もそんなに甘いほうではない。ただ、今のご意見への回答になるか分からないが、グリーン購入というのは、極端に言えば、「高いから買う」ことに意味のある制度である。公共機関が価格の高いうちに購入することによって価格を下げ、民間や個人にも買いやすくしようというのが本来の趣旨である。常に高くても買うというのはどうなのという面もあるが、高いうちに積極的に買うということが大事な取り組みではあって、達成率だけを見るとかなり浸透しているのかなと思う。

斎藤之良委員： 3で甘いと思う方もいるかと思うが、購入理由に品質優先が38.5%、価格優先が34.5%とある。現場でグリーン購入達成率だけで管理するのは難しい。コストのアップをどれぐらいまで許せるかについて、線引きしてあげればいいのか。そこで管理できるかと思う。たとえば、昨年度のグリーン購入のために、グリーン購入をしないのと比べて、要した費用が5%アップくらいだったとする。であれば、5%という枠組みをする中で、グリーン購入達成率を高めていくと。現場任せでグリーン購入達成率を達成するのはなかなか難しいと思う。枠組みをコントロールすることで、達成率を上げていく方法もあるかなと思う。

コンサルタント： 枠組みというのは、価格だけでなく、特にこれに力をいれて、これは出来る限り購入するようにしてください等の周知をするとかそういった構造に対する何か働きかけをするというイメージでよろしいか。

齋藤之良委員：先ほど申し上げたのは、予算取りについてである。予算の中で、グリーン購入のために要する費用は、例えば5%までは高くてもいいなど。品物によって5%なのか10%なのかがあると思うので、年間を通じて5%までは許容しようとかそういった目安でコントロールできるのではということである。現場はなかなか、品質優先で決めましたとか、価格優先で決めましたということだと達成ができないのではないかと思う。

コンサルタント：お金を使うということが一番、行動するにあたって足かせになっているところだと思うので、やり方によっては非常に進むやり方かと思う。うまいスキームが作れればだが、よいと思う。

評価項目(4)エコオフィス活動（職員共通）

檜山委員：評価対象の12項目について、実績の平均点の4.2点を上回る項目が7項目あり、評価点3の評価基準の下限である3.6を下回る項目が発生していないということを鑑みて4点でいいかと評価した。

奥委員：2019年度と同じ実績を維持しているということから、全体としては概ね評価できていると思っている。しかし、細かいところというと、「電気ポットを使用しない」や「不用品を有効活用する」ことについては、改善の余地があるという風に思っている。

評価項目(5)エコオフィス（施設担当）

松波委員長：実績報告書の14ページのとおり、去年の実績に比べて、定期点検実施率は上がっているが、日常運用実施率は下がっているところで、5にはできないということで4とした。

齋藤崇委員：概ねよくできていると思うが、昼休みの消灯等の課題があるため4とした。

伏見委員：昼休みの消灯について、昼休みの市民の来庁が1階を除いては少なくなっていると思う。なので、もう少し減らせるのではと思う。

屋 委 員： 皆さんと同じである。

運用状況

奥 委 員： 環境法令の遵守について、不適合件数が前年度よりも大幅に減少してはいるものの、不適合が少なからずあるという状態は、依然として問題であると考えている。速やかな是正とともに、再発防止策を徹底するということを重ねてお願いしたい。

コンサルタント： 不適合項目のうち、特に気になるものはあるか。

奥 委 員： どれも気になるが、フロン排出抑制法、廃棄物処理法はゼロにしなければいけないと思う。また、PCBについては、質問のところで、PCB含有廃棄物の保有状況はきちんと把握しているかを確認できたので、あとは、しっかりと処分をするということのを待っている状況のようなので問題はないかと思う。

コンサルタント： おっしゃるとおり、不適合についてはゼロが基準である。去年より単純に件数が減ったから大丈夫というものでは決してない。減ったのは好ましくはあるが、ゼロが基準だというのは私もその通りであると思う。

檜 山 委 員： 不適合は大幅に減ったとはいえ残っているところと、理由はどうあれ未是正の部分があるので、4はつけられないかということで3とした。

屋 委 員： 確かに環境法令のところについて、若干の是正はあるが、一方で情報公開というところで、今日のような外部の方、市民の方も入った場で、環境法令に適合していないことを詳らかにしていることは評価できる。研修も、コロナ禍においてもe-ラーニング等を用いて行っていることで4と評価した。

コンサルタント： 今のお話について、環境法令遵守チェックシートがある程度機能しているから悪いところが見つまっているのだというところは評価していただけるという理解でよろしいか。

屋 委 員： 他の自治体のことを見ているわけではないが、初めて自治体の

外部評価をさせていただいている中で、しっかりといろんなものを公開して行っているというところは評価できるのかなと思う。

コンサルタント： いろいろな自治体と比較をすると、町田市のような大きな自治体で結構点検というか、しっかりしているほうだとは思いますが、役所は結構法律違反が多い。企業よりも断然多い。一番よく知っている担当者が何の引継ぎもなく、簡単に異動してしまう等、自治体全体の課題であると思うが、毎年、廃棄物処理違反で書類送検されている事例もある。都内の自治体でもある。そんな中、しっかり自己管理の仕組みが機能しているなどは印象としてはある。ただ、ゼロではないので、ここがゼロになればいい点数が付くかと思うが。

斎藤之良委員： 全体的にはいいと思う。さらに、屋委員からも情報公開の話があったが、ホームページを見たところ、今までの情報がほとんど網羅されて公開されているので、情報公開はかなりしているということで評価を4としている。

外部評価報告書 まとめについて

松波委員長： 「評価項目(2)資源（廃棄物・紙）」の部分については、全員低い点数をつけているので、そこについては何らかの言葉があった方がいいのではないか。目標値を設定していないということもあって、特に項目でいうと「評価項目(2)資源（廃棄物・紙）」のところの課題は大きいのではないかと思います。もう1点、環境法令について、減少したことは改善であるが、さきほどもお話しがあったように、本来法令遵守は0であるべきなので、看過できない問題だということ強く記載いただきたい。

奥委員： 今、松波委員長がおっしゃったことに加えて、温室効果ガス排出量の削減に大幅に繋がった、代替値未満の排出係数の事業者を要件としたと、随意契約をしている施設についてもそれを必須としたということは、これは前年度から比べると大きな前進であるということ記載していただくといいかと思う。

斉藤崇委員： 温暖化のところのポジティブな部分は記載していただいたほう

がいいかと思う。内部環境監査は今回ないのでその部分は削れる。温暖化に関して言うと、排出係数が低くなることによって、その年々のイレギュラーな要因を抑える形になる。構造的という言い方が違うかもしれないが、減らすような仕組みになりつつあるということを含めて評価したい。逆に、紙や廃棄物については構造的に改善に向かうようなところが見られないと思うので、あえてポジティブなことも書いた方がいいかなと思う。

檜山委員： エネルギーの部分は入れたほうがいいかと思う。排出係数の低い業者さんを選定するというのは他の自治体の参考にもなるような取り組みだと思うので、そういった点でも記載するのはよろしいかと思う。

屋委員： 温室効果ガスのところ、現在の目標に対してはしっかりとできているが、昨今の動きに合わせた目標に見直しということは記入してもよろしいかと思っている。エネルギー量については以前いただいた資料で、電力比が5%の減ということで、排出係数の方で工夫されているもののエネルギー全体では大きく減っていないという部分があるので、国が目指している2030年に46%減ということを目指していく中では、もう一段階高い目標設定を検討するほうがよろしいかと思う。紙の削減については、庁舎内の会議があるかと思うが、会議の主催者や上長等から、紙を用意した時に「なしにしていこう」ということを言い続けていけば減っていくかと思うので、そこがマイナスに結果として出るように努力いただけたらと思う。

コンサルタント： 今、部長会でも紙の資料ではなくタブレットが基本になっていたりするだろうか。

事務局： 先日、部長会議で初めてだが環境資源部長として、事業者としての紙削減を提案した。その後、課長達のクラスでもペーパーレスになりつつある。先ほど屋委員からもあったとおり、言い続けなければいけないかと思うので、部長クラスの会議や、課長クラスの方では総務担当課長会でも今年から試行で紙の削減の話をしている。その効果が今回は出ていないが、来年、再来年と数字が出てくると思う。庁内の紙の削減、ペーパーレスというのは、財

政の部長と総務部長との3部長でやっていく。近いうちには、成果を出せるものと考えている。

コンサルタント： 町田市は、他の役所よりもペーパーレスが進んでいる印象はある。

屋 委 員： 民間の立場だと、紙を出すと怒られるという感じになってきている。言い続けるのは大変だが、上長側から言うと広がっていくかと思うので、来年以降も減ることを期待したい。

斎藤之良委員： 紙の削減については、皆さん言われるとおりである。私たちも、役所に紙で大量に申請を出さなきゃいけないとかもあるので、公的機関の方の受付も紙でなくてもいいようになれば、民間の紙使用量も減るのではないかなと思う。環境に関する配慮、細かい取り組みも大事で、世の中の流れをみると環境に対する配慮等が一部のカテゴリではなく、市政全般に大きな影響をこれから与えていくと思う。CO2をどうやって減らすかが、市政、町田市の運営の中で大きな課題になってしまうのではと感じている。こういった環境マネジメントが役に立っていくのではと思う。

コンサルタント： 企業は、ESG 対応というところで、環境配慮について以前よりも全然環境配慮が求められている度合いとか、経営戦略としての重要性というのは以前と比べ物にならないくらい高まっている。少し前までは、自治体って決してそうではなくてというのがあったが、カーボンゼロの影響が非常に大きい。屋委員もおっしゃっていたが、目標値も来年度見直しの際、かなり厳しい値で設定されるようになるかと思います。そういった意味で言うと、環境の取り組み、またその成果も役所は今まで以上に求められるのは間違いないと思う。

屋 委 員： 投資家や金融機関からのチェックというか、株主が当然いらっしゃるが、株主からの厳しい指摘というのは多くなっている。それだけの理由ではないが、弊社も長期目標を改めさせていただいた。弊社に限らず、様々な企業でそういう動きをしているので、自治体も、自治体によってはゼロカーボンシティとか表明して

いるところもあり、やっていかなければいけないかと思う。企業だけとか自治体だけ等ではなく、総力を挙げていかないと、実現できないかなと思っているところである。

伏見委員： 職員の努力等はいい傾向にあると思う。ただ、廃棄物の排出量というのを減らしていかなければいけないのではないかなとは、痛切に感じている。

コンサルタント： 廃棄物のところは気になるだろうか。先ほどの台風のところの話は、私も印象としては気になるところである。事前の対応でそんなに出るのだろうかと思議には思う。データの取り方とか要因分析のところに、まだ改善の余地があると感じた。

伏見委員： よろしく願います。

コンサルタント： 今、皆さんからいただいたご意見と、これからいただく評価意見で多かった項目等を踏まえて、こちらの方で文書をまとめさせていただきます。その後、最終的には松波委員長に確認いただく形で進めていこうかと思っている。ほかに意見はないようなので、松波委員長にお返しする。

松波委員長： 本日も審議いただいた内容及び会議後にご提出いただく「評価シート」の内容をもとに、報告書をまとめさせていただきます。作成した報告書案は、後日各委員に送付するので、確認をお願いしたい。そのうえで、最終的な報告書の完成にあたり、文言等、軽微な訂正は、委員長一任で修正させていただきますと思うがよろしいか。
では、今後の流れを事務局から願います。

- 事務局から、今後の流れの説明を行った。

松波委員長： 最後に委員の皆様から一言ごあいさつをいただきたい。

- 各委員から一言ずつ挨拶

- 事務局から挨拶

松波委員長： これで今年度の外部評価委員会を閉会する。